

2014 年度事業報告

■初めに

当団体の活動の柱である譲渡は、犬 512 頭、猫 604 頭の合計 1,116 頭で、昨年度犬猫合計 1,518 頭からマイナス 402 頭と大きく減少させてしまう結果となりました。

多くの方にご期待をいただきながら実績を減らしてしまったことを痛烈に反省しております。

早急に譲渡実績を回復させ、2015 年度以降も一頭でも多くの子を救うために活動を続けて参りますので、引き続き皆様のご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。

■犬猫の飼育・譲渡について

犬では過去最高譲渡数であった 2013 年には及ばなかったものの、例年並みの譲渡を行うことができました。しかしご縁が無いまま大きくなってしまった少年犬・成犬たちが飼育頭数全体の 4 分の 1 を占めるようになり、こうした子たちにもご縁をつなぐことが課題となっています。

犬	受入数	譲渡数	受入後死亡数	死亡率
2012 年度	634	515	104	16.4%
2013 年度	774	638	107	13.8%
2014 年度	572	512	78	13.6%

猫では、新施設で初めて、3 年ぶりの猫の感染症(パルボウイルス)流行に見舞われました。感染症対策そのものはこれまでの経験を活かして一定の対応を行うことができ 6 月には終息しました。しかし一方では、比較的健康的で感染症のリスクが低いであろう子たちへの対応が後手に回りがちになり、また対応が慎重になり過ぎた面もありました。不妊手術をするタイミング、里親さんと面会していただくタイミングなどが少しずつ遅れ、結果として長期間の滞在に至り、受入数・譲渡数ともに大きく減少させてしまいました。

猫	受入数	譲渡数	受入後死亡数	死亡率
2012 年度	921	862	62	6.7%
2013 年度	1,005	880	90	9.0%
2014 年度	793	604	184	23.2%

■飼育管理の効率について

当団体は一頭でも多くの子を保護し、一日でも早く譲渡することで多くの命を助けることをポリシーとしております。その大きな指標の一つが動物たちの飼育日数です。あくまで結果にすぎませんが、より良い活動を行うための指標としてご報告いたします。

犬は少年犬・成犬の増加に伴って、飼育効率がやや悪化しました。

猫は去年度と同じ程度の動物たちを飼育したことになりますが、譲渡の滞りがそのまま反映され、飼育効率を大きく落とす結果となりました。

飼育効率の指標 ※年度内受入の子のみ対象	犬		猫	
	1頭の平均譲渡まで日数	総飼育日数	1頭の平均譲渡まで日数	総飼育日数
2012年度	37	24,308	85	75,497
2013年度	36	27,747	63	58,118
2014年度	43	25,025	92	62,461

■移転について

多くの方のご支援を受け、2012年4月に施設を移転しましたが、移転から2年が経つこと、また6月にはいただいた支援金が費用を上回り黒字となったため、一時支援金の募集を停止しました。まだ完成していない設備もありますが、今後は、黒字分で出来る範囲の手当てを行い、その後は日常活動の中で犬舎の拡充・猫舎の拡充・施設の環境改善などを順次行う予定です。

移転にかかわる支出と支援金（2011～2014年度末まで）

単位：円

支出	金額	収入	金額
建物・工事	19,295,900	支援金	32,600,585
資材・消耗品	4,008,390		
家具・備品	1,268,643		
地代家賃	1,869,534		
租税公課	577,225		
保証金	3,116,500		
支払手数料	1,832,742		
その他	60,375		
合計	32,029,309	合計	32,600,585
収支		571,276	

■収支について

位:万円

収支の推移(簡易)				
収入	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
譲渡にかかわる諸費用	3,011	3,451	4,267	3,294
支援金	4,362	3,882	3,247	2,976
その他	103	166	85	155
合計	7,477	7,500	7,599	6,424
支出	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
飼育費	869	1,062	598	656
医療費	954	1,443	1,151	1,069
人件費	3,485	2,848	3,007	3,183
地代家賃	480	768	760	787
水道光熱費	263	251	293	318
その他の費用	913	825	951	790
管理費	482	431	495	478
合計	7,446	7,627	7,256	7,283
収支	30	-127	343	-859

※詳細は各年度の決算書をご覧ください。

当団体の活動は、保護した子たちの飼育費や医療費の一部を里親様にご負担いただくことと、活動にご賛同くださる方々からのご寄付で成り立っています。

2014年度は譲渡数を大きく減らしてしまったことから収入も大きく減らす結果となり、800万円以上の赤字となりました。

2013年秋から大きく減少してしまった支援金の影響も少なくありませんでしたが、新しい試みを提供して下さった企業や、それを利用して下さる多くの方に支えられて9月以降回復傾向にあります。今後より良い活動を行うことで多くの方にご賛同いただき、救命実績にもつなげたい考えです。

■その他の事業計画に対する結果について

2014年度当初、「2024年の未来像」を掲げて複数の計画を立てていましたが、進展させることができませんでした。具体的にご報告できることが無いことをお詫びいたします。

本件については中長期的な視点で実現する必要があるため、単年度計画にこだわらず一歩ずつ前進していきたいと考えています。

■総括

動物の飼育頭数がピークを迎える 8 月頃まで資金難が続いたことで活動への影響は小さくありませんでした。しかし、それ以上に内部で抱える多くの問題に適切な対応を行えず、譲渡数を減らしてしまい大きな反省の残る一年となりました。

しかし、言い換えれば私たち自身の努力で挽回が可能だと考えております。

今回の反省を活かして、早急に譲渡実績を回復させ、新しいことにもチャレンジいたしますので、皆様の変わらぬご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。

以上